

# 平成14年度 若手技術者セミナー開催報告

技術委員会

平成14年度（通算24回目）「若手技術者セミナー」は、平成14年7月24～25日の2日間にわたり岩手県盛岡市繋温泉（ホテル紫苑）で開催いたしました。参加者は今年度よりオペレータ向けのセミナーを分離し、若手現場管理者向けとし、22名の参加となりました。

以下、プログラム・講習内容等について報告いたします。

## 1. プログラム

【第一日目】（1月17日；13:00～）

- ①研修委員会 委員長挨拶
- ②講演
- ③グループディスカッション（一日目）
- ④懇親会

【第二日目】（1月18日；9:00～14:00）

- ①グループディスカッション（二日目）
- ②全体会議

## 2. 講演：土壤汚染地下水汚染の調査修復技術

講師の西田道夫先生は、現在、協同組合地盤環境技術研究センター専務理事の要職にあり、土壤汚染調査修復技術の第一人者です。また、これまでのご経験は、土壤汚染関連のみにとどまらず、地質調査全般について極めて豊富な方です。

講演内容は、全地連発行のマニュアルを講演テキストとして話題を提供していただき、『今までの地質調査から土壤汚染調査への転換拡大』をベースにお話ししていただきました。

ご講演の主な項目を以下に列記します。

- ①最近の土壤・地下水汚染調査の動向と環境基準の変遷
- ②技術開発
- ③サイト調査手法
- ④対策工事

①のお話では、最新の法整備情報の提供とともに、土壤・地下水汚染調査の市場性について、私たち業種に明るく活躍の場があることを強調され、元気づけられました。

②～④のお話では、国際基準との比較を交えてご説明いただき、日本の土壤・地下水汚染調査や対策への水準・認識の遅れを痛感されました。

若手技術者セミナー



熱心に講演される西田先生

## 3. グループディスカッション（一日目）

初日のグループディスカッションでは、西田先生の講演内容を受けて、土壤汚染や地下水汚染に関する調査についての話題が中心となりました。セミナー参加者はほとんどが若手技術者で、土壤・地下水汚染調査の経験は少ないながらも、西田先生に加えてパネラーの技術委員の経験談などを参考にして、活発な意見交換が行われました。

中心になった話題を三つ紹介します。

◎土壤・地下水汚染の調査を行うには、ボーリング技術や汚染物質などに関する化学的知識はもちろんのこと、広く環境に関する知識や法律に関する知識までが必要である。また、専門的な知識の理解に加えて、それらに基づいた総合的な判断力や顧客への説明能力まで求められて

いる。そういった仕事は、やり甲斐がある反面、とても難しく、今後も多くの技術力を身につけられるように努力したい。

◎土壌・地下水汚染で重要になるのは情報の取扱い管理である。汚染源や、汚染状況に関する知り得た情報は、社外はもちろん社内でも厳しく管理されなければならない。そういった情報の管理は簡単なようで意外と難しいことから、我々調査業者としては守秘に関するノウハウを持たなければならない。

◎日本の土壌・地下水汚染対策は、まだ法律できちんと規定されているとは言えない。今後の市場展開や拡がりについては未知で不透明な部分が多いため、慎重な取り組みも必要。

#### 4. グループディスカッション (二日目)

二日目のグループディスカッションはABC三つのグループに分かれ、前日に各グループでA:「地すべり」、B:「顧客に対する対応」、C:「守秘義務」というテーマを決め、懇親会で参加者を勧誘するという新趣向にしました。

懇親会やその後の小夜会で強引な(?)勧誘を図ったグループもありましたが、最終的には人数的に大きな偏りのないグループ分けに落ち着き、世話役の委員は安心しました。

各グループのディスカッションは、前半は前日に決めたテーマに沿って進められました。後半はフリートークとなりました。そこで取り上げられた話題には、西田先生の講演に関連した土壌・地下水汚染に関するもの、現場代理人とボーリングフォアマンが良好な関係を築くにはどうするか、現場管理を円滑に進めるためのコツはないか、普段の報告書作成で悩んでいること、地質調査業の業界に対

する思い等、極めて多岐に亘っていました。経験・話題共に豊富な西田先生やパネラーの技術委員の方々と交えて、熱いディスカッションが繰り広げられました。

興味深かった若手技術者の地質調査業の業界に対する思いで述べられた意見のいくつかを以下に御紹介します。

- ・毎日勉強が必要だが面白さを感じている。
- ・不景気な今こそ、勉強して技術力を付けておきたい。
- ・若手は業界の好景気時期を知らないが、希望を無くしている訳ではない。
- ・仕事や会社に対する漠然とした不安はあるが、今は頑張るだけ。
- ・地質調査業はサービス業であり、これまでの姿勢を見直すべきではないか。



グループディスカッションの様子

#### 5. 全体討議

今回の若手技術者セミナーのグループディスカッションでは、参加者の自主性を生かして積極的に参加して頂くため、各グループで座長・記録係・発表係・機関誌「大地」原稿執筆者を決めてもらいました。



全体討議では、各グループで話し合った内容・意見を、それぞれのグループの発表係が時にはユーモアを交えて発表してくれました。

三つのグループの発表終了後は、最後まで残っていてくれた西田先生に対する質疑応答の時間となりました。この際聞いておきたいという質問にも西田先生はこやかに答えられ、終始盛会でセミナーは終了しました。

#### 6. 最後に（技術委員会より）

今回の若手セミナーは、若手現場管理者向けとしてリニューアルして開催しました。セミナーの最後には、参加された技術者の皆さんにアンケートを実施いたしました。

アンケートの集計結果としては、参加

者の日頃の業務は、外業・内業の両方に携わる方が大半を占めておりました。

講演及びグループディスカッションの内容については、ほとんどの方が仕事の上で参考になったと回答していただいております。グループディスカッションの開催方法については、前回まで回答のあった「違う形式がよい」といった意見はなくなっており、今後も新しい形のセミナーを企画したいと思います。

その他として、開催スケジュールや内容に対する貴重な意見や提案もあり、今後のセミナー開催に生かしたいと思っております。

今年度より、若手技術者セミナーは年一回の開催となりましたが、その分内容の濃いセミナーにしていきたいと思っております。



参加者全員での記念撮影